

令和8年9月

ニュースレター

いりおもての森から

発行：林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

沖縄県石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎 1 階

TEL 0980-88-0747

No.72号

次世代へつなぐ豊かな自然の価値

～ 世界自然遺産登録 5 周年を迎えた西表島 ～



世界自然遺産登録5周年
記念ロゴマーク

2026 年 7 月 26 日、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は世界自然遺産登録から 5 周年を迎えました。2021 年の登録以来、西表島はその豊かな生態系と希少な野生生物が世界的に評価される地域として、国内外から大きな注目を集めています。

西表島は島の約 9 割を亜熱帯の森林が占め、イリオモテヤマネコをはじめ、多くの固有種や希少種が生息する「生物多様性の宝庫」です。世界自然遺産への登録は、この地域が長い年月をかけて育んできた独自の進化と豊かな自然環境が、世界的に重要な「顕著な普遍的価値」を有する人類共通の財産として認めら

れたことを意味しています。

世界自然遺産への登録 5 周年を記念して那覇市で開催された記念シンポジウムでは、「奄美・沖縄の自然遺産を次の世代へ、私たちがつなぐ物語」をテーマに、研究者や地域関係者、若い世代が一堂に会し、遺産地域の未来や次世代への継承について意見を交わしました。また、同時開催された「奄美・沖縄 12 市町村アイランドマルシェ」では、西表島を含む遺産地域の自然環境や文化、特産品の魅力が来場者に向けて発信されました。

西表島では、世界自然遺産としての価値を守りながら地域振興につなげるため、エコツーリズムの推進や自然環境の保全活動、適正利用のためのルール作りなどの取組が進められています。

世界自然遺産登録 5 周年は、これまでの保全の成果を振り返るとともに、この貴重な自然環境を次世代に引き継ぐ責任について改めて考える機会となりました。

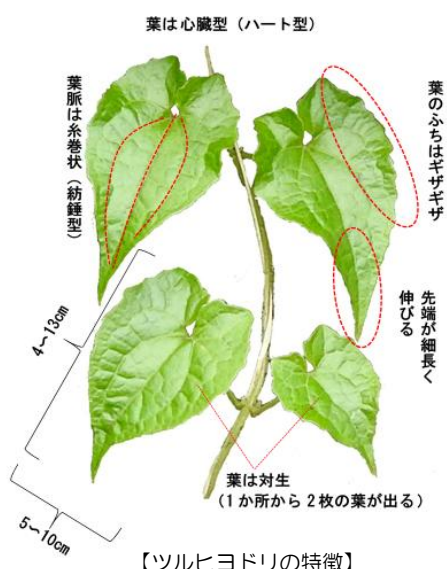


奄美大島、徳之島、沖縄北部及び西表島
世界自然遺産オブジェクト

いりおもての森から No. 72 ①

世界の侵略的外来種ワースト 100

～ 外来植物ツルヒヨドリ除去作業 ～



令和8年3月に特定外来植物に指定されているツルヒヨドリの株が大富遊歩道沿線にて確認され同年4月より月1回程度の頻度で除去作業と区域確認を行ってまいりました。

ツルヒヨドリは南北アメリカの熱帯地域原産のつる性植物で、世界の侵略的外来種ワースト 100 に選定されており、その特徴はツルが1日に10センチほど伸びると言われ、繁殖力が極めて強く、林冠や樹木を覆うように繁茂して在来植物の生育を阻害し、生物多様性の低下を招くことが懸念されています。

沖縄県では、やんばる地域や西表島など自然環境保全上重要な地域において重点的な対策が進められており、希少な植物が多い西表島の生態系を保護し、世界自然遺産の価値を守るうえでもツルヒヨドリの早期発見・早期除去により被害拡大防止行なってまいります。

お願い！盗るのはヤメて撮るだけに！

～希少種持ち出し防止のための普及啓発活動～

八重山諸島は豊かな自然環境に恵まれ、特に西表島はそのほぼ全域が国立公園や森林生態系保護地域などの保護区に指定されており、多くの希少な動植物が生息しています。

これらの中には法令により捕獲や採取等が規制されている種も多く、無断で持ち出した場合には法令違反となるため、パンフレットを通じて希少種の特徴や規制内容を紹介し、来島者の理解と協力を、大原港及び上原港において環境省、竹富町役場、林野庁及び関係者が連携し呼びかけました

年2回の活動では、ゴールデンウィークと夏休みに行われ、船で来島した観光客に対してパンフレットを配布し、8月にはイリオモテヤマネコの子猫の活動が活発になるためレンタカーによる交通事故防止に向けた注意喚起も併せて行いました。

近年においてはオカヤドカリ類等の希少な野生動物を狙った密猟事案も発生しており、希少種の持ち出し防止対策の重要性が高まっています。今後も環境省や竹富町など関係機関と連携し、秋季の昆虫採集対策に関する普及啓発活動や夜間パトロール等を実施しながら、西表島の貴重な生態系の保全に取り組んでまいります。



西表島の樹木いろは①



イソフジ (マメ科) 絶滅危惧IB

(出典…西表島の植物誌)

【イソフジ】
海岸に生える高さ3mほどの常緑の小高木または低木です。葉は奇数羽状複葉で裏面にはヒロード状で灰白色の軟毛を密生します。黄色の総状花序の花をつけます。竹富町自然環境保護条例で採取等が原則禁止されています。

世界の北限に生きる「ニッパヤシ」を守る！

～船浦ニッパヤシ モニタリング調査を実施～

西表島の船浦地区に、世界でも特別な植物が静かに生き続けています。『ニッパヤシ』熱帯・亜熱帯のマングローブ域に生育するヤシの仲間で、西表島の船浦湾が「世界の自生地北限」にあたります。地上に幹を持たず、葉だけが地面から広がるように伸びるその姿は、他のマングローブ植物とは一線を画す独特の存在感を放っています。

この希少な群落は「船浦ニッパヤシ希少個体群保護林(上原国有林 208 は林小班)」として国指定天然記念物に指定されており、植物地理学上も極めて重要な場所です。

当センターでは平成 17 (2005) 年からモニタリング調査を開始し、現在は毎年2回(6月期・11月期)、葉の状態・地盤高・開空度(光環境)・定点撮影などを継続的に実施しています。

令和8年度の第1回調査を、令和8年6月に実施しました。

前年調査との比較では、全体の葉数が増加するなど、すべての生育エリアで増加が確認され、群落の生育状況はおおむね良好と評価できます。

また、令和5年度には採光のために周辺木(オヒルギ)の除伐を行い、この効果によりニッパヤシ自身の葉も大きく育ってきています。

ニッパヤシは過去に、群落の衰退が危惧された経緯もあり、有識者からの助言をいただきながら、ニッパヤシ生育環境の改善対策を実施するなど樹勢回復を図りながら、今後もこの貴重な群落を守るためのモニタリング調査を継続していきます。世界の北限に生きるニッパヤシの姿は、西表島の豊かな自然の象徴です。



調査の様子

西表島の自然環境を学ぶ！

～ 上原小学校で「森林教室」を開催 ～

当センターでは、自然環境教育の推進を目的として西表島内の小学生を対象とした「森林教室」を開催しています。

今年度も竹富町立上原小学校より開催の依頼があったため、5月に3年生8名、5年生10名を対象にそれぞれ1時間の授業を実施しました。

3年生の授業では、当センターの業務内容について説明するとともに、樹木の生長量調査で使用する現場道具を実際に体験してもらいました。

また、西表島は総面積の約9割が森林に覆われていることや、その大部分が世界自然遺産の登録地域に含まれていることを紹介しました。さらに、日本や世界の森林率との比較を通じて、西表島の自然環境の豊かさについて理解を深めてもらいました。

そのほか、西表島でよく見られるマングローブ林について、特徴や役割をクイズ形式でわかりやすく説明するなど興味を持って学べるよう工夫した授業を行いました。

5年生の授業ではさらに踏み込んだ内容として、マングローブ林が利用されてきた歴史や、世界各地で伐採が進んできた背景について説明しました。また、今後の西表島のマングローブ林の保全についても生徒たち自身に考えてもらいました。

授業後には、「林野庁の仕事や国有林について理解できた」、「マングローブ林が減っている国があることを知らなかった」、「オヒルギたちが生長できる仕組みを理解できた」といった感想が寄せられました。

当センターでは、今後も自然環境教育をとおして地域貢献に取り組んでいきたいと考えています。現在、西表島大原地域の大富遊歩道内の展示林区域に樹名板の設置を増やすなど、実際に植物と触れ合いながら在来植物について学ぶことができるフィールドづくりを進めることで、森林教室をはじめ、地域の子供達に、西表島の自然環境の重要性を伝えていけるよう、より一層取り組んでまいります。



授業の様子（5年生）



クイズに答える生徒（3年生）



測竿の体験



現場道具（ヘルメット）の説明

「森の巨人たち100選」

～ ウタラ川のオヒルギモニタリング調査 ～

林野庁では、平成12年（2000年）に全国の国有林内に生育する巨樹・巨木を国有林野の財産として将来にわたって保全することを目的に、各地の代表的な巨樹・巨木を「森の巨人たち百選」として選定しており、西表島の国有林内においては「仲間川のサキシマスオウノキ」と「ウタラ川のオヒルギ」2本が登録されています。当センターでは平成17年（2005年）から毎年、両巨木の生育状況の把握と保全を目的として継続的な調査を実施し、その調査結果を「西表島巨樹・巨木保全協議会」（以下、保全協議会）に報告することとしています。

これまでの調査により、ウタラ川のオヒルギでは樹幹内部の腐朽や樹勢の衰退が進行していることが確認されていたことから、令和6年度（2024年度）に樹木医による診断が実施されました。その結果、不定根（※1）の保護など樹勢回復に向けた対策の必要性が指摘され、令和7年度（2025年度）には、保全協議会により樹幹内部に残されていたウレタンの除去、不定根の保護、オキナワアナジャコの巢の除去など、樹勢回復及び生育環境の改善に向けた取組が実施されました。

今回の調査では、オヒルギ本体及びその周辺環境に大きな変化は確認されませんでした。保護された不定根の伸長が確認されました。不定根は将来的に地面へ到達することで、新たな支持根として機能することが期待されます。一方、昨年度に除去されたオキナワアナジャコの巢については、周辺部で新たなシャコ塚の形成が確認されました。現時点では巨木の直下やその周辺に営巢していないことから、直接的な影響は小さいと考えられますが、今後も生育環境への影響を注視していく必要があります。



アナジャコ除去前（令和7年度9月）



アナジャコ除去後（令和8年度9月）

オヒルギの樹幹については、腐朽が進行している箇所が見られますが、樹冠部では健全な枝葉が上方へ伸長しており、旺盛な生育の様子が確認されました。老齢木であることから一部に衰えは見られるものの、巨木そのものが枯死しているわけではなく、現在も生命活動を維持している様子がうかがえました。

ウタラ川のオヒルギは、西表島を代表する貴重な巨樹であり、多くの島民や来訪者に親しまれています。当センターでは、今後も関係機関と連携しつつ、オヒルギの樹勢や周辺環境の変化を継続的に調査し、貴重な森林資源の保全に努めてまいります。

※1 不定根：根が生えるはずの場所（胚根・主根）以外から生えてくる根のこと、主に栄養の吸収を増やすため、損傷した根の代わりを生やすために生成される。



保護前の不定根



保護後の不定根

西表島の樹木いろは②



イヌビワ(クワ科)

(出典：西表島の植物誌)

【イヌビワ】
海岸近くの林地から山すそにかけて生育する高さ3〜5mの落葉の低木です。葉は互生、卵状楕円形で葉先は鋭形、基部はハート型両面無毛です。実は熟すと黒紫色になります。雌雄異株。

◆◇人事異動（令和8年4月1日付け）◆◇

◆お世話になりました◆

転出：小野 貴行（転出先：長崎森林管理署）
田中 和利（転出先：福岡森林管理署）

◆よろしくお願いします◆

転入：片山 雅明（前任地：熊本森林管理署）
園田 泰夫（前任地：環境省（出向））